

皆さんの声を町政に

まちづくり懇談会

佐々木学町長との「まちづくり懇談会」が、10月15日から11月21日までの日程で町内25会場で開かれました。集まった町民は延べ284人。今年度上半期の事業やイベントなどの報告、町が直面している地域課題などを町民の皆さんと懇談しました。

※町ホームページから、懇談会の議事録や町からの情報提供資料を閲覧することができます。
 トップページ→「行政・まちづくり」→「協働のまちづくり」



開会にあたり佐々木町長からあいさつ

栗山赤十字病院の改築問題

質疑 先日、栗山赤十字病院、由仁町立病院（現診療所）、町立南幌病院が、今後「再編・統合の議論が必要な病院」として新聞報道された。町立長沼病院が対象となっていないが、どういうことなのか。再編・統合と関係があるのか。また、現在の栗山赤十字病院の経営状況はどうなっているのか。町は今後どのように考えているのか聞かせてほしい。

回答 新聞報道については、栗山赤十字病院をはじめ、今回公表された公立・公的病院は戸惑いや憤りの

声が上がっている。今回の報道で町立長沼病院が「再編・統合の議論が必要な病院」として公表されなかったのは、今回調査の該当病院ではなかったためで、直接、再編・統合と結びつくものではない。栗山赤十字病院の経営状況は、現在の病床数が、136床で稼働率は約80%となっており、通院患者も高齢者を中心に利用は多い状況である。他の公立病院の約7割が赤字経営となっている中、栗山赤十字病院は、町から約1億円の補助を受けているものの、近年黒字経営となっている。ただ、累積赤字がまだ約30億円あり、赤字解消には至っていない。町としては、今後、経営の状況や診療状況、将来の診療科目、病床数など総合的に判断し、現在議論を行っている検討委員会の方向性やアンケートなどの町民の声も踏まえ、今年度中には一定の方向性を示したい。

介護福祉学校の存続

質疑 在校生のうち、栗山町出身の学生は何人いるのか。町外の子どもを養成しても卒業後、町に残って額の一一般会計からの繰入金投入してまで運営する必要があるのか。

回答 本町出身の学生は、毎年2〜3人が入学しており、卒業後も町内の就職先を志望する場合が多い。介護人材の不足が将来的に見込まれることから、介護福祉学校は今後も必要であると考え。本町単独での経営負担に対して道に広域自治体としてのリーダーシップをとってもらえるよう要請しているが、なかなか難しい状況である。

栗山高校の存続

質疑 栗山中学校から栗山高校への進学者が2割しかない。ほかの学生はどこへ進学しているのか、分析はしているのか。

回答 栗山中学校の平成31年3月の卒業生86人のうち、19人が栗山高校へ進学している。岩見沢方面への進学者が一番多く49人、その他は美唄市、三笠市、札幌市の公立・私立の高校などへ進学している。栗山高校進学者の地域は、栗山町以外に、由仁町、南幌町、夕張市、岩見沢市などから進学してきている。



町営バスの運行時間

質疑 町営バスを利用しているが、午前中に帰ってくるバスの便が少ないので運行時間を見直してほしい。

回答 町営バスはコミュニティバスも含めて10台、町営バスは1日8路線25便、コミュニティバスは1路線8便で運行しており、いろいろな地区から通院や買い物などに町営バスを利用されている。皆さんの生活に合うように増便してバスを走らせることができれば良いが、全ての皆さんが満足のいく時間帯で運行していくのは難しい。今年、町営バスに関して、町民約5千人にアンケート調査を行い、半数以上の方が回答をいただいた。現在、分析中だが、11時・12時台に空白の時間があるなど、多数のご意見をいただいている。皆さんからいただいたご意見をもとに、町民委員会を設置して議論していただき、試験運行をしながら、できるだけ今よりも皆さんの意見を反映したバスの運行体制がとれるようにしたい。

ボールパーク構想

質疑 ボールパーク構想として、初会合があったと聞いた。町としては、栗山監督の存在など期待が持てる場所であると思うが、進捗を聞かせてほしい。

回答 令和元年7月に協議会が設置され、13市町や道、日本ハムの球団、交通事業者を含む関係団体が集まった。その中で3つの分科会が設けられ、今後、具体的な取り組みについて協議していく。3つの分科会の内容は、1つ目は食の魅力提供、2つ目にスポーツ・人づくり、3つ目に周遊策。各市町の資源や、ボールパークを通じてどのような活性化が考えられるか、今後議論を深めていく。

